

公開情報

調査者	山川 諒太
情報ソースの刊行日	2020年4月16日
情報ソースの調査日	2020年4月3日～4日
タイトル	新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査 後編
情報ソース	株式会社第一生命経済研究所
文献 (URL 含む)	http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_02.pdf
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の 20～69 歳の男女 1000 名にインターネット調査でアンケートを実施した. ・「自宅で過ごす時間」は 6 割弱, 「同居家族と一緒に過ごす時間」は半数弱が増加. 「友人・知人と一緒に過ごす時間」は 4 割弱が減少. ・4 割以上の人で「TV やインターネットを見ること」が増えた. 約 2 割の人がネットショッピング, SNS, ゲームの利用が増加. ・自宅外での運動機会が減少. 外食は減少し, 内食が増加. 飲酒機会も減少. ・「運動不足」を感じる人が過半数. 「時間的ゆとり」が増えても「ストレス」は増加. ・新しい外部サービスの利用は 1 割未満. ・「偶然知った」「自ら調べた」人はサービスを利用している. ・6 割超が自由に外出できることのありがたみを実感. 半数近くが, 体の弱い人や外出に制約のある人の大変さについて考えるようになった.
注目ポイント 考察	<p>自宅で家族と過ごす時間が増えたが知人や友人と過ごす時間は減り, 新型コロナウイルスの感染拡大はライフスタイルに変化をもたらしていた. また, 外出が制限され運動不足やストレスの増加を感じる人が増えており, 今後はこれらを解消し在宅で有意義に過ごせるモノやコンテンツの社会的ニーズの増加が予想された. しかし, 感染拡大に伴って外部サービスの利用を開始した人は 1 割未満に留まり, 情報も「偶然知った」人や「自ら探す」人が多く, 情報とニーズのマッチングが重要になると感じた. 新型コロナウイルスの感</p>

	<p>染拡大を背景とする生活の変化に伴って、人々の間には様々な不安意識の広がりやストレスの増大がみられた。一方で今回の出来事は、個人の今後のライフデザインや普段のライフスタイルに様々な気づきや学びの視点をもたらしている面もあるようだった。</p>
--	---